

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究
分担研究報告書

「Quality Indicator 評価から考える課題：単一施設からの報告」

研究分担者 井上雅美 大阪母子医療センター血液・腫瘍科 主任部長

研究要旨

Quality Indicator (QI) 評価を行うことで施設ごとに取り組むべき課題が明らかになると思われる。QI 評価を踏まえて大阪母子医療センターが取り組むべき課題について考える。また、指標の中には中規模医療機関である小児医療センター（子ども病院）と比較して、成人も診療対象とする大規模医療機関である大学病院や総合病院の方が有利になる項目があることから、その評価には慎重な考察が必要と考えられた。

A. 研究目的

小児がん医療の質を客観的に評価するツールである Quality Indicator (QI) 評価を行うことで、自施設が取り組むべき課題を明らかにする。

指標 6：専門・認定看護師数 = 3

指標 7：専門・認定薬剤師数 = 1

指標 8：緩和医療専門医・指導医 = 0

指標 10：臨床研究コーディネーター数 = 3

指標 35：妊孕性保存提案・実施数：

男性患者実数 = 0

指標 36：治験実施数 = 0

B. 研究方法

QI による評価を行い、評価が低い指標を探索し、今後改善すべき課題とする。

D. 考察

今回の検討で自施設が取り組むべき課題が明らかになった。対象年齢によっては困難な場合があるが、とくに男性を対象とする妊孕性保存提案・実施に積極的に取り組む必要が感じられた。治験実施にも積極的に取り組むべきである。

がん診療・研究において重要な役割

C. 研究結果

QI 評価の結果、大阪母子医療センターにおいて以下の指標は評価が低いと判断され、今後改善すべき課題と考えられる。

指標 3：小児がん認定外科医数 = 1

指標 4：放射線治療専門医 = 0

を担う専門医、看護師、薬剤師、臨床研究コーディネーターなど多職種の専門職をさらに育成・充実させる必要がある。その一方で、これらの専門職の実数は大規模医療機関である大学病院や総合病院で有利になると考えられ、また人員総数がそのまま小児がん医療・研究に携わっているとは考えにくい側面についても考慮すべきで、QI指標を評価する際に、慎重な考察が必要と考えられる。

E. 結論

Quality Indicator (QI)評価を行うことで大阪母子医療センターが取り組むべき課題が明らかになった。また、指標の中には中規模医療機関である小児医療センター（子ども病院）と比較して、成人も診療対象とする大規模医療機関である大学病院や総合病院の方が有利になる項目があることから、その

評価には慎重な考察が必要である。

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

なし

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他 .

なし